

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 4月4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1290400074
法人名	有限会社 リンクステージ
事業所名	グループホーム さくらんぼ
所在地	千葉県千葉市若葉区野呂町1793-355 (電話) 043-228-4639

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成21年3月26日	評価確定日	5月19日

【情報提供票より】(平成21年3月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成19年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	6人, 非常勤 11人, 常勤換算 13.6人

### (2) 建物概要

建物構造	木造(準耐火構造)造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	敷金	無
その他の経費(月額)	水道光熱費20,000円 + おむつ代等実費		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有(1年償却)
食材料費	朝食	400 円	昼食 450 円
	夕食	500 円	おやつ 150 円
	1日当たり 1,500 円 / 1月当たり 45,000 円 (30日)		

### (4) 利用者の概要(3月10日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	7 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.1 歳	最低	68 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	千葉南病院
---------	-------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道126号線沿い白井中学校向かいにある2階建て2ユニットのグループホームで、近くに泉自然公園がある。平成19年6月1日にオープンし、管理者と職員が協力して「誠心誠意・信頼関係構築・礼儀礼節」を大切にしながらグループホームづくりを行っている。生活の中で様々な出来事を楽しみながら、職員と入居者は家庭的な雰囲気の中で共に生活している。炊事、洗濯、掃除などを共に行い、お互いに支え合う関係ができていくことが、入居者の笑顔や職員の関わりから見受けられた。管理者は、「認知症の人を支援する専門職千葉連絡会」の副運営委員長を務め、「千葉市認知症対応型サービス事業管理者研修」のシンポジウムにシンポジストとして参加するなど、多くの事例や科学的に検証されたケアなどを学びホームの質の向上に活かしていきたいと考えている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての外部評価受審である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回が初めての外部評価受審であり、管理者と主任が中心となって自己評価を行い、職員からの意見を聞きながら進めた。管理者はホーム運営への取り組みや進め方は職員参加型を心がけている。今後はさらなるホームの質の向上を図るために、職員が自己評価を行うことで、当事者意識の高揚、現状の把握、課題解決の自覚を持ち、多角的な視点をホームの運営に反映し、活用されることを期待する。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>平成20年の運営推進会議は年2回と開催頻度は少ないが、参加メンバーには地域包括支援センターからの参加もあり、ホームの状況、防災訓練、身体拘束についての報告を行っている。会議で参加者から出された意見を、ホームの運営に活かせるように検討し、優先順位を付けて取り組んでいる。今後は公民館と図書館の併設施設を利用して会議を開催することで地域の参加者も増やしていきたいと考えている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>健康状態、ホームの状況、入居者の様子などを随時管理者から家族へ連絡している。個々に対応すべき内容については家族の訪問時や電話、郵送等で個人情報に配慮し報告をしている。家族が意見や苦情を気軽に言えるような関係を構築できるように管理者が中心となり、職員とともに家庭的な関係づくりに努めている。家族から意見や要望が出された際には、改善に向けて取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>グループホームの施設長が自治会(地域)にいる関係で、地域とは連携が取りやす状況にある。自治会に加入し、地域の祭りや花火大会などの行事に参加し、ホームの横にゴミ集積所を作り近隣住民に使用してもらえるようにしている。また近所の人との立ち話や野菜の差し入れをしてもらえる関係になってきている。今後は更に、入居者の見守りやホームの防災時連携も含めて地域と良好な関係を構築し、ホームの取り組みを地域に広めていくことが期待される。</p>

## 2. 評価結果 ( 詳細 )

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所理念は、「入居者の立場に立った誠意ある支援、家族との信頼関係を築く、礼儀礼節・親しき仲にも礼儀あり」であり、家庭的なホームづくりを行っている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時、ケース会議毎に介護者の心得、かわり方の注意事項なども含めて、理念を確認している。また、理念だけでなく、ホームが大切にしていること、介護職としての考え方、介護への姿勢なども適時、管理者から職員に伝えている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の祭りや花火大会などの行事に参加している。ホームの横にゴミ集積所を作ったり、近所での立ち話や野菜の差し入れをしてもらえる関係になってきている。今後は更に地域との交流を進め、地域の一員として職員と入居者の顔が見える関係を構築していきたいと考えている。		徐々に地域との関係が構築され、ホームの取り組みが認知されつつある。今後は更に、入居者の見守りやホームの防災時連携も含めて地域と良好な関係を構築し、ホームの取り組みや関わりを地域に広めていくことが期待される。
ch					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての外部評価受審であり、管理者と主任が中心となって自己評価を行い、職員からの意見を聞きながら進めた。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	20年度の運営推進会議は2回と開催頻度は少ないが、地域包括支援センターからの参加もあり、ホームの状況、防災訓練、身体拘束についての報告を行っている。会議で参加者から出された意見をホームの運営に活かせるように検討し、優先順位を付けて実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	千葉市高齢施設課担当者に運営上の相談をしている。また、市担当者へは介護保険の利用方法や困難事例などの話を聞きホームの運営に活かすとともに、千葉市が実施している研修にも参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態、ホームの状況、入居者の様子などを随時管理者から家族へ連絡している。金銭管理に関しては、月に1度報告をしている。また、個々に対応すべき内容については家族の訪問時や電話、郵送等で個人情報に配慮し報告をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が中心となり、職員とともに、家族が意見や苦情を気軽に言えるような家庭的な関係づくりに努めている。家族の意見や要望が出された際には、できるだけ要望に添えるよう改善に向け取り組んでいる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職の際には、入居者の精神的なダメージに配慮し、その都度状況に合わせて対応している。管理者は採用時からホームの理念や考え方に合った人材を採用するように心がけている。また、運営面で職員が納得して働けるアットホームな環境づくりと、介護の基本を大切に職員が想いを実現できるように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員一人一人の力量を把握しており、日々のケアの中でトレーニングを行い、職員もそのトレーニングによりレベルアップしていると実感している。また、管理者は介護を作業として捉えないように指導している。しかし、研修計画を立てて、それを実践するまでにはいたっていない。		管理者は職員個別の力量に合わせた育成計画を作成し、研修に職員を積極的に参加させることが望まれる。併せて、職員が個々に自身の力量を把握し、目標を明確にすると、さらに育成の効果が図られると思われる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にある他のグループホームと交流を深め、互いにホームの質の向上ができるように意見交換している。グループホームの連絡会に職員も参加し、他のグループホームのやり方などを学びホームの質の向上に取り組んでいる。今後は定期的に、情報交換や相互交流を通して、互いに質の向上を図りたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にはホームを見学し、雰囲気や職員との交流が図られおり、本人と家族が納得し、安心して入居できるように配慮している。また、入居後のホームの雰囲気に馴染みやすいように本人はもとより家族との意思の疎通を密にしている。問い合わせや相談時には、家族との意思疎通も大切に面談を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者一人ひとりにあつた個別対応で、家庭的な雰囲気を大切にし、生活の中で起る様々な出来事を楽しみながら共に生活している。炊事、洗濯、掃除、礼儀作法など入居者が職員に教えたりしながら共に支え合う関係が構築できている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に希望等を聞き、困難な場合には家族に聞くようにしている。また、入居者の中には本人の希望で入居したのではない人もおり、帰宅願望があるが、その後に出てくる意向を普通の会話の中から引き出すようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者、計画作成担当者、職員で話し合っで計画を立てている。入居者や家族の意向は必要に応じて聞いている。		計画作成担当者が入居者、家族、管理者、職員等と話し合っで、意見を反映した介護計画を作成することが必要と思われる。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に一度の見直しをしている。変化がある時はその都度家族に相談して、1ヶ月以内に見直している。日々の状況の変化は申送り等で職員間で共有し、家族にはその都度説明している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者のかかりつけの眼科、耳鼻科等への通院支援を行っている。また、近隣から認知症等の相談を受けることも増えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	千葉南病院と医療連携をしているので、往診や訪問看護をしてもらっているが、眼科や耳鼻科に関しては、かかりつけ医で受診している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、家族に印鑑をもらっている。医療連携加算の指定をとっており、医師とも話し合いができています。、医師の判断でホームで過ごすことが可能であり、入居者、家族が希望すれば看取りまでを考えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳を大切にされた介護が実践されていることが、職員の対応等から感じられた。個人情報事務所で管理し、取扱には注意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課や消灯時間は、決まっておらず、仲の良い入居者同士が部屋でお茶とお菓子でおしゃべりをしたり、新聞を読んだり、それぞれのペースで暮らしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みを聞きながら、職員がその日冷蔵庫にある材料を使って、メニューを考えている。手伝える人はお茶を入れたり、配膳や下膳をしている。食器はお箸お茶碗等は自分の物を使い、栄養バランスの摂れた美味しい食事を、職員と一緒に会話をしながら食べている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は特に決めていないが、時間帯は2時から5時と決めている。希望すれば、状態に応じて毎日でも入浴ができる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	サークル活動で覚えた作品を作る、新聞を読む、歌を唄う、食事の準備を手伝う、これまでと同じように野菜を作る等生活歴を踏まえた楽しみを持てるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日はホームの周りを歩くこともあるが、日常的とまではいえない。車を購入予定なので、今後は買物や遠出もしたいと考えている。		今後は少しずつでも、入居者の希望にそって支援されることが期待される。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害については充分理解した上で、防犯上から、家族の了解を得て、敢えて鍵をかけている。しかし、入居者が外に出たいと希望すればすぐに対応している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1階、2階それぞれ消防署に直結する非常ボタンが設置されている。職員にも緊急時対応については良く説明しているが、定期的な訓練や、地域との連携はこれからという状況である。		消防署の協力が得られることになっているので、今後は全職員が参加して定期的な訓練を実施することが望まれる。また、夜間については不安が残るので、地域との連携を強め、協力が得られる体制作りが必要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分ともに摂取量を記録している。栄養バランスについては提携病院の栄養士に定期的に見てもらっている。二食以上、食事が食べられないような状況の時は、病院とも相談してエンシュア・リキッド(総合栄養剤)を摂取してもらうようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るいきりびんぐには観葉植物等が置かれ、テーブル以外にも畳を敷いたスペースや、ソファがあり、思い思いに過ごしている。グループホームは入居者にとってもうひとつの自宅なので、あまり施設のような飾り付けをせず、すっきりとしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や好みの品を自由に持ち込み、中には畳を敷いている人もいる。大きな作業机を置いて、作品づくりに励む入居者がいたり、思い思いに過ごせる居室を作っている。		